

北斎かわらばん

北斎館(仮称)ニュース

創刊号

平成20年(2008年)6月発行



『すみだ』と『北斎』

―「すみだ」で生まれた

世界の北斎―

墨田区は長い歴史をもち、東京二十三区の中でも、特に古い行事や伝統技術を残している区の一つです。こうした歴史を誇る区内には、様々な活躍をした偉人が多数輩出しています。その中でも、世界的な画家として評価の高い「葛飾北斎」は、今から約二百五十年前に本所割下水で生まれたと言われています。本所には南と北の割下水がありました。単に割下水という場合には南割下水を指しました。今日では、割下水のあった江戸東京博物館から錦糸公園へと続く大通りが、北斎通りと呼ばれています。

北斎は、嘉永二年(一八四九年)に亡くなるまで、およそ七〇年近く作品を描き続けました。錦絵「富嶽三

十六景」や絵手本『北斎漫画』などの作品は海外に渡り、ゴッホなど一九世紀のヨーロッパ印象派の芸術家に大きな影響を与えています。

九十歳という長い生涯のうち、九〇回以上も引越をしたといわれますが、そのほとんどを墨田区内で過ごしています。達磨横町(現



「富嶽三十六景 凱風快晴 (がいふうかいせい) (赤富士)」

【発行】
墨田区区民活動推進部
文化振興課
北斎館建設準備担当
☎03-5608-6115

【編集協力】
財墨田区文化振興財団
北斎担当

ふれあい活カサシ

すみだ

東駒形一丁目(目辺)に住んでいた八〇歳の時に初めて火災に遭いますが、筆一本だけを握って逃げ出したといっています。

北斎は画号を何度も変えていて、春朗・宗理・為一・載斗・卍などがあります。葛飾北斎の「葛飾」は、出生地である「すみだ」を含む地域が、武蔵国葛飾郡であったことから名のつたといわれます。また、生涯を作画にささげた北斎を象徴する画狂人・画狂老人なども用いています。



「北斎肖像 溪斎英泉画」

地域に、世界に
貢献する北斎館(仮称)
をめざして

墨田区では、郷土の偉大な芸術家である北斎を、区民の誇りとして永く顕彰するとともに、本区の特徴ある文化として国内外に発信し、文化観光都市づくりを推進していくために、北斎に関する総合的な美術館「北斎館(仮称)」の開設を計画しています。

館の設置目的を次のように定め、計画を推進してまいります。

●●北斎館(仮称)の設置目的●●

- 北斎の顕彰を通じて、地域に愛着を深める場
- 区民の生涯学習の場
- 地域活性化の拠点(観光、産業への寄与)
- 国内外に向けての情報の発信
- 国内外の交流の場



「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏 (かながわおきなみうら)」

【編集後記】

このたび創刊しました『北斎かわらばん』は、すみだの地域と北斎とのかかわり

や北斎館(仮称)計画について、わかりやすくお知らせする季刊紙です。ご期待ください。

もっと北斎について知りたい皆様へ…
参考図書のご紹介

『葛飾北斎 すみだが生んだ世界の画人』

北斎の生涯を、代表的な作品とわかりやすい文章で、年代順に紹介しており、「北斎」と「すみだ」との縁の深さがわかります。

平成七年に発行以来、親しまれてきましたが、平成十八年に改訂し、「北斎ゆかりの地」の紹介や、浮世絵版画の製作過程を簡単に説明した豆知識などを付け加えました。

ハンドブックとして、末永くお手元に置いていただきたい本です。

『北斎研究』

北斎とその門人に関する、世界で唯一の総合的な専門研究誌です。最新の研究成果の報告と、北斎資料の紹介に務めています。年二回発行で、現在、第四一号まで刊行されています。

【右の書籍に関する問合せ】

(財)墨田区文化振興財団北斎担当

☎03-3829-4122

